

出雲原権

の
吉界

能
山

お話し 金子直樹

仕舞

大江山 粟谷能夫

地謡

柏崎 大島政允

道行

佐藤 陽
長島 茂
大村 定
狩野了一

狂言

伊文字

シテ(霊夢の女)
通行人

山本東次郎

アド(主人) 山本凜太郎
アド(太郎冠者) 山本泰太郎

舞囃子

敦盛

友枝昭世

三王 清
横山幸彦
出雲敏弘

能

シテツレ(遊女)
百万山姥 大島輝久

シテ(山姥)
山の女 出雲康雅

山姥

ワキ(従者) 宝生欣哉

ワキツレ(供人) 則久英志

ワキツレ(供人) 御厨誠吾

アイ(境川の里人) 山本則孝

後見 金子匡一

中村邦生

地謡

金子敬一郎 大村 定
長島 茂 大島政允
栗谷明生 友枝昭世
狩野了一 粟谷能夫

〔休憩二〇分〕

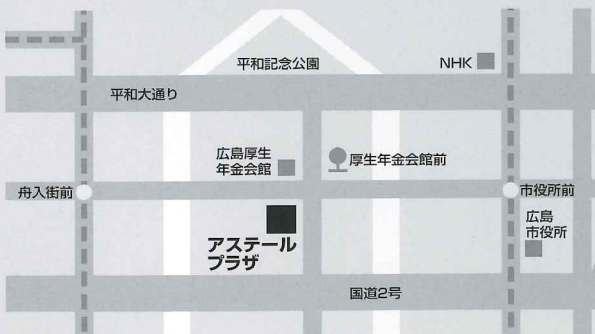
【伊文字】

清水の観世音に妻乞いの祈誓を掛けた主人に夢のお告げが下った。霊夢の通り西門に行くと、奥ゆかしげな女性の姿が…。「お迎えを差し向けますのでお住まいを教えてください」と太郎冠者に尋ねさせるが、女は返事を歌で返して消えてしまった。あわてて主人に報告する太郎冠者だったが、「恋しくは問うても来たれい」の後が思い出せない。困った主従は道行く人に教えてもらおうと、関を作って待ち構える。

そこへやつて来たのが、主人の使いで山の向こうへ急ぐ男、運悪く歌関に引っかかってしまい、どうしても通してもらえない。関を通過するため、やむなく主従と緒に歌の続きを思い巡らす。

【山姥】

山姥の山めぐりの曲舞で有名になった都の遊女が居て、名も百万山姥と呼ばれていた。その遊女が従者達を連れて善光寺へ参る途中、越後の上野の山にかかる時、日中なのに急に暗くなった。そこへ中年の女が現れ、自分は実は山姥だが、例の山姥の曲舞が聞きたくて日を暮れさせたのだと言って立ち去る。夜がふけるとまことの姿の山姥が現れ、遊女の舞う曲舞に合わせて舞った末、本当の山めぐりの様を見せ、峰を伝い、谷を駆けて姿を消す。



広島アステールプラザ能楽堂(中ホール)

◇平成27年11月29日<日>

◇午後12時開場・午後1時開演

◇入場料

正面 10,000円 脇正面 8,000円

中正面 6,000円 二階席 2,000円(自由席)

◆主催 喜雲会

お問い合わせ先 喜雲会事務局・中田

Tel.090-5694-1511 kiunkai@docomo.ne.jp

(財)広島市文化財団アステールプラザ

〒730-0812 広島市中区加古町4-17

Tel.082-244-8000 Fax.082-246-5808

〔午後四時過終了予定〕